

授業科目名	幼児体育演習	教員名	城戸 佐智子	免許・資格との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授業形態	演習	配当年次	3年次後期	卒業要件	保育士	必修
科目番号	HY0302				こども音楽療育士	
単位数	1単位				小幼コース	選択
					幼保コース	必修
科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等						
科目	告示別表第1による教科目					
系列	保育の表現技術					
一般目標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を構想する方法を身につける。					
到達目標	<p>(1)各領域のねらい及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2)当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4)各領域で幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科等のつながりを理解している。 <p>(2)保育内容の指導方法及び保育の構想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)幼児の認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2)各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 5)各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 					
授業の概要	子どもの発達と運動機能に関する知識について理解し、遊びの本質の理解のもとに、教育・保育施設での運動遊びを実践する。また、新たな遊びの創造による身体表現活動を実践する。身体表現活動の指導の展開を学ぶ。授業形態は、演習とする。アクティブラーニングとして、振り返り、レポート等を取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業計画	<p>第1回：授業の取組みに関するオリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の各領域のねらいについて理解する。 ・本授業の方針、進め方、評価について学ぶ。 ・これまで遊んできた子どもの遊びをできるだけ思い出してまとめる。(目標(1)-1)) <p>第2回：体育の内容と遊びの分類、運動の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達・発達と運動機能に関する知識について理解する。 ・子どもの発達・発達と遊びを分類して学習ノートにまとめる。(目標(1)-2)) <p>第3回：基礎基本の運動と子どもの遊び①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動の知識と技術(徒手体操・ストレッチ体操)など各種の体操について、事前に体を動かしておくことで理解を深める。(目標(1)-2), (2)-1)) <p>第4回：基礎基本の運動と子どもの遊び②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体運動の知識と技術(歩く、走る、はう、止まる、跳ぶ、回る)について理解を深める。(目 					

	<p>標(1)-2), (2)-1))</p> <p>第5回：基礎基本の運動と子どもの遊び③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体運動の知識と技術（投げる、受ける、押す、引く、伸びる、曲げる、そらす）について、理解を深める。 ・いろいろな基本的な動きを学習ノートにまとめる。（目標(1)-2), (2)-1)) <p>第6回：子どもの遊びを豊かに展開する基本の身体表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な身体活動を自ら実践する。 ・幼児期の運動発達に沿った運動指導の留意点と教師の役割を場面にに基づき考える。（目標(1)-2), (2)-1)) <p>第7回：子どもの遊びを豊かに展開する基本の身体表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模（ごっこ）遊び、見たて、劇遊び、運動遊び等にみる子どもの経験と保育環境について学ぶ。（目標(1)-2), (2)-2)) <p>第8回：既存の身体表現活動を組み合わせた身体表現活動の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の過去の遊びや毎時間学んだ遊びを組み合わせたり書物等での関節体験の遊びを組み合わせたりして新たな表現活動について学ぶ。（目標(1)-2), (2)-2)) <p>第9回：リズムに乗って楽しく踊る身体表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで「すぐに動ける」「一緒に楽しく」をキーポイントに自分たちが選んだ音楽に乗ってダンスをつくって発表し、相互評価する。（目標(1)-3)) <p>第10回：友達と楽しく踊る身体表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体を思い切り動かす楽しさや友達と触れ合うことで生まれる感情・効果について知る。 ・既成のものからアレンジする面白さ、それによって広がる動きを楽しむ。（目標(2)-1), 2)) <p>第11回：動きからイメージへの身体表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひと流れの動きを精一杯動き、そこから湧いてくるイメージを付加してまとまりのある表現にすることを学ぶ。 ・表現の手がかりとなる身の回りの自然、乗り物等をよく観察し動きのデザインにしておくことを理解する。（目標(1)-1), (2)-2)) <p>第12回：イメージから動きへの身体表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージから発想する形や動きを強調、集約、繰り返して自分らしい表現にすることを理解する。（目標(1)-1), (2)-2)) <p>第13回：新たな身体表現活動の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まったく新しい発想で遊びを創造する。 ・新しい要素を事前にできるだけ考えておく。（目標(1)-1), (2)-3)) <p>第14回：子どもの実態に応じた身体表現活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の視点からの手順や配慮の在り方を学ぶ。 ・保育の視点と観点について事前に考えておく。（目標(1)-1), (2)-4)) <p>第15回：実践的な身体表現活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的・実践的な指導計画の作成を学ぶ。 ・先輩の作成した指導計画を参考に事前に写しを書いてみる。（目標(1)-1), (2)-5)) <p>期末試験：試験期間中に実施</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>服装の準備(10%)、学習ノートの記録・レポート課題(50%)、期末試験(40%)で評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>授業外学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週2時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回の授業計画に沿って学習内容を自ら調べてノートにまとめ、身体表現活動に関しては実際の動きを自分なりに創っておく。</p>

	事後学習：毎回、授業で行った運動遊びや身体表現活動についてノートにまとめ、復習する。
テキスト	『幼稚園教育要領解説』
参考書・ 参考資料等	手作りによる学習ノート、その他適宜資料を配布する。
担当者からの メッセージ	保育には欠かせない運動遊びや身体表現を学ぶ科目である。実習での研究保育などに生かしてもらいたい。
オフィスアワー	授業日の放課後 Email : skido@edu.miyazaki-mic.ac.jp